たまねぎレポート【第424号】

令和5年2月27日

阪南青果株式会社

社　内　報

１月の天候は、全国的に気温の変動が大きかった。下旬の降雪量は西日本の太平洋側でかなり多かった。降水量は北・東日本の日本海側、北・東日本の太平洋側、沖縄・奄美で少なかった一方、西日本の日本海側で多かった。日照時間は北・東・西日本の日本海側、北・西日本の太平洋側、沖縄・奄美で多かった。２月は全国的に寒暖の差が大きい日が多い。月後半には、突然成層圏昇温が発生し、その後は冬の寒さとなり、３月に入る頃にかけて高温傾向となる予想。

気象庁の３～５月の長期予報では、この期間の平均気温は、北・東・西日本で高い確率50％。月別予報は次の通り。

３月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側

では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨の日ガ少ない。

4月、北・東日本の日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の1月の野菜の販売量は、200，483トン前年比101％（前月比86％）平均単価はkg￥243前年比104％（前月比110％）。市場別には大きなバラツキはなく、総じて前年比並みかやや増で、単価高となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比102％、平均単価はkg￥206前年比100％。東京市場の販売量は前年比99％、平均単価は Kg￥260前年比105％。名古屋市場の販売量は前年比103％、平均単価はkg￥235前年比100％。大阪本場の販売量は前年比108％、平均単価はkg￥235前年比101％。福岡市場の販売量は前年比98％、平均単価はkg￥189前年比107%となっている。

建値市場の1月の玉葱の販売量は29，173トンで前年比118％、（前月比78％）、平均単価はkg￥113前年比66％（前月比117％）。殆どは北海物で、前月に続き府県物・輸入物が大幅減となった。平均単価は総体的には前年比66％の大幅安だが前月比117％で強含みで推移した。市場別では、札幌市場

の販売量は3，085トン前年比99%、平均単価はkg￥90前年比68%。東京市場の販売量は8，722トン前年比109%、平均単価はkg￥127前年比67%。名古屋市場の販売量は5，187トン前年比108%、平均単価はkg￥114前年比69%。大阪本場の販売量は4，105トン前年比118%、平均単価はkg￥118前年比59%。福岡市場の販売量は1，736トン前年比100%、平均単価はkg￥120前年比67%となっている。

日本農業新聞社による主要7地区における、卸の代表7社が販売した1月の主要野菜14品目の販売量の集計値と、平均単価は次の通りである。総販売量は92，651トン前年比3%増、平年（過去5年平均値）比3%増。平均単価はkg￥146前年比1%高、平年比2%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ブロッコリーが16%増、ジャガイモ・ネギが12%増、タマネギが9%増など9品目。販売量が前年比減の品目は、ナスが11%減、キュウリが10%減、ピーマンが9%減、ニンジンが5%減、ハクサイが2%減の5品目。前年比高となった品目はピーマンがkg￥653で41%高、キュウリがkg￥455で36%高、ニンジンがkg￥101で25%高、ハクサイがkg￥51で24%高、ダイコンがkg￥80で23%高など9品目。前年比安の品目は、ジャガイモがkg￥111で前年比46%安、タマネギがkg￥102で32%安、ホウレンソウがkg￥532で10%安など5品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷量は、110，751トン前年比99%（前月比88%）。平均単価はkg￥260前年比105%（前月比109%）。旬別では上旬がkg￥294、中旬が￥241、下旬が￥255でいずれも前年比高となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、ホウレンソウが前年比121%、バレイショが110%、タマネギ・レタスが109%、ネギが108%など6品目。入荷が前年比減の品目は、ナマシイタケが前年比80%、キュウリ・ピー

マン・ナス、キャベツが90%、ハクサイが94%など9品目。価格が前年比高の品目は、ハクサイがkg￥53て前年比137%、キュウリがkg￥509で前年比136%、ピーマンがkg￥741で136%、ダイコンがkg￥99で130%など10品目。前年比安の品目は、バレイショがkg￥134で前年比56%、タマネギがkg￥127で67%、ホウレンソウがkg567で95%、レタスkg￥2164で96%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

品　　目	入荷量（t）	前年比（%）	前月比（%）	単　価（¥/kg）	前年比（%）	前月比（%）
野 菜 総 数	110,751	99.2	88.3	260	105.1	109.2
た ま ね ぎ	8,722	109.3	91.8	127	66.7	117.6
キ ャ ベ ツ	13,560	90.4	101.7	98	124.7	142.0
は く さ い	13,089	94.2	85.4	53	136.6	126.2
だ い こ ん	10,281	99.7	93.6	99	129.5	150.0
に ん じ ん	6,604	100.7	76.9	115	115.7	97.5
ば れ い しょ	6,909	109.6	86.4	134	55.8	110.7
レ　タ　ス	6,501	108.6	93.4	264	96.2	141.2
ね　　ぎ	5,483	108.2	91.2	264	103.1	90.4
ト　マ　ト	5,064	97.1	111.4	351	103.6	85.2
き ゅ う り	4,154	90.1	106.9	509	136.1	102.6
か ぼ ち ゃ	1,202	68.3	53.2	335	178.5	122.7
な が い も	575	89.8	72.4	351	127.8	98.9
れ ん こ ん	932	147.8	65.0	292	54.5	92.7
に ん に く	200	103.9	84.0	844	78.5	99.4

玉葱の概況

需要（市場）の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の１月の玉葱の入荷販売量は8,722トン前年比１０９%（前月比92%）。主力は北海物で入荷量は7，787トン前年比１１７%、占有率は89%で前年比5ポイントアップ。静岡物は730トン前年比９４%、占有率8%前年比2ポイントダウン。中國物は１27トン前年比28%、占有率2%前年比4ポイントダウン。 総平均単価はkg￥１27前年比67%（前月比１１８%）。産地別単価は、北海物はkg￥１１０前年比60%、静岡物はkg￥２８６前年比１０５%。中國物はkg￥１４７前年比１２２%。となっている。

２月に入って、北海物の入荷は前年比１５%前後の増加となったが、当初計画をかなり下回る状態が続いている。静岡産の早生物も天候に阻まれ、出荷は後ズレしており、計画をかなり下回っている。従って、需給は概ね均衡しているものの、産地の価格要請が強く、高値悩みでは売れ行きは今ひとつの状況であった。月後半からは、愛知・佐賀産の走りが入荷しているが、連続入荷は3月半ばになりそうだ。月末となった昨今の市場は、府県の新物が静岡を始め、長崎・愛知・佐賀が顔を見せ、総じて高値悩みで売れ行きが伸びず、北海物も現状の価格維持が厳しくなっている。

２月１日～２０日の玉葱の販売量は6，７４０トン前年比１０９%、北海物、静岡物は前年比増となったものの予想をかなり下回った。総平均単価はkg￥１２７前年比67%。産地別では、北海物の販売量は5，６１１トン前年比１１６%、平均単価はkg￥１１６前年比60%。静岡物は９３８トン前年比１０４%、平均単価はkg￥２４８前年比89%。中國物は86トン前年比29%、平均単価はkg￥１５

0前年比134%。となっている。1月末の強風雪で、静岡を始め府県の早生物の生育が停滞し、入荷は予想を下回ったものの、売れ行きも今ひとつで伸びなかった。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は5，187トン前年比108%（前月比59%）で前年比増、前月比大幅減となっている。メインは北海物で、前月に続き北海物の独壇場となっている。北海物は4，881トン前年比110%、占有率は94%で前年比2%アップ。静岡物は241トン前年比95%、占有率5%で前年も5%で同じ。愛知物は28トン前年比143%。総平均単価はkg￥114前年比69%（前月比123%）。産地別の平均単価は、北海物はkg￥103前年比66%。静岡物はkg￥298前年比95%。愛知物はkg￥294前年比.96%とっている。

2月に入ってからも、平凡な動きで荷動きに変化はなく、保合相場が続いている。北海物主力の販売で、仕切り値は￥2,200を維持に努めたが、在庫もそれなりに抱え込んだ。静岡物は日量10トン程度の入荷で少なく、買参人の注文に応じられない状態が続いた。昨今では、愛知物も少量入荷しているが、産地が強気で希望値が高く、引き合いが鈍く少なくて幸いの感がある。いいずれの産地も強気で、高値悩みで売れ行きは伸び悩んでいる。北海物も産地の希望値の販売を続けているが、荷動きが鈍く在庫は増加傾向である。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は4，105トン前年比158%（前月比95%）で前年比大幅増、前月比減となっている。銘柄品の兵庫の『淡路島たまねぎ』の冷蔵物は在庫減ながら、で大幅減となったが、主力の北海物が大幅増となった。産地別の販売量は、北海物が3，514トン前年比17

3%、占有率86%で前年比9ポイントアップ。兵庫物は443トン前年比76%、占有率11%で前年比5ポイントダウン。静岡物は110トン前年比79%、占有率は 3%で前年比 7%ダウン。総平均単価はkg￥118前年比59%（前月比109%）。産地別の平均単価は、北海物はkg￥103で前年比57%、兵庫物はkg￥185前年比71%。静岡物はkg￥305前年比101%となっている。

2月に入ってからも、北海物の入荷は順調で、特に商系物が多く、売れ行きが伸び悩みで、弱気配の市況が続いている。静岡物も JA 物に商系物が加わり前年を上回る入荷が続いている。特に静岡の新物は、スーパー筋の注文が多く荷動きは比較的順調である。一方、兵庫の冷蔵物は既に品質老化が目立ち、人気離散で相場は日を追って軟化している。昨今では、兵庫も極早生の抜き堀りが入荷し、斜陽化の冷蔵物をしり目に高値に売れている。北海物は、春物に押されて売れ行きが鈍くなり、弱気配の市況が続いている。産地からは来週からの出荷減が通告されているが、転送業者の引き合いも多く、品不足にはならないと見ている。静岡・長崎物の入荷は順増傾向にあるが、L・M は量販筋向けに動きは良いが、2L と・B 級の動きは鈍い。

2月1日～20日の玉葱の販売量は3，360トン前年比166%、平均単価はkg￥123前年比59%。産地別では、北海物は2，830トン前年比188%、平均単価はkg￥106前年比57%。兵庫物は257トン前年比94%、平均単価はkg￥163前年比67%。静岡物は204トン前年比113%、平均単価はkg￥268前年比89%。となっている。北海物の入荷は、前年比大幅増。最盛期を迎えた静岡物は、前年比増ながら予想を下回った。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は、1，736トン前年比100%(前月比84%)で、前年比並み、前月比減となっている。主力は北海物で、販売量

は1，563トン前年比112%、占有率90%前年比9ポイントアップ。中國物は104トン前年比47%、占有率6%前年比9ポイントダウン、佐賀物は24トン前年比389%。総平均単価はkg￥120前年比67%（前月比109%）で前年比安、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg￥114前年比60%。中國物はkg￥125前年比120%。佐賀物はkg￥261前年比110%となっている。

2月に入ってからも、市況に大きな変化はなく、活気はないものの、落ち着いた相場と荷動きが続いた。北海物主力で、一部￥2,400の高値はあるものの￥2．300が中心で、産地からは値上げの要望は無かった。長崎・佐賀物の入荷も始まったが、荷主別の品質格差が大きかった。月後半には新物の入荷が増加すると予想されたが、昨年の異常高を経験した産地は強気だが、月前半の高値では、売れ行きは伸びそうになかった。昨今の入荷は、80%が北海物で新物が20%の比率だが、北海物も売れ行きは今ひとつだが、新物の方が販売環境は厳しい。

2月1日～20日の玉葱販売量は1，342トンで前年比101%、平均単価はkg￥128で前年比66%、入荷量は前年比1%増、価格は前年比34%安となっている。

2月25日（土）の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】　販売量106トン　　強い

北　海 20kgDB2L￥2,100～1,700、　L大￥2,300～1,800、 L￥2,200～1,700、
M￥2,000～1,400。

【太田市場】　販売量228トン　　弱保合

北　海 20kgDB2L￥2,200～2,000、　L大￥2,400～2,200、 L￥2,400～2,200、
M￥2,200～2,000。

静　岡 10kgDB2L￥2,000～1,800、　L￥2,500～2,300、　M￥2,200～2,100。

長　崎 10kgDB2L￥1,800～1,600、　L￥2,200～2,000、　M￥2,200～2,000。

佐　賀10kgDB2L￥2,000～1,800、　L￥2,500～2,400、　M￥2,300～2,200。

愛　知 10kgDB2L￥2,000～1,800、　L￥2,300～2,200、　M￥2,200～2,000。

【名古屋北部市場】　販売量83トン　　弱い

北　海 20kgDB2L￥2,200～2,000、　L大￥2,300～2,200、L￥2,300～2,200、
M￥2,000～1,900。

静　岡 10kgDB2L￥2,000～1,900、　L￥2,500～2,300、　M￥2,300～2,200。

愛　知 10kgDB2L￥2,300～2,100、　L￥2,500～2,300、　M￥2,300～2,200。

【大阪本場】　販売量 71トン　　弱い

北　海 20kgDB2L￥2,200～2,000、　L大￥2,300～2,000、L￥2,200～2,100、
M￥2,000～1,800。

静　岡 10kgDB2L￥2,200～1,900、　L￥2,600～2,300、　M￥2,400～2,200。

長　崎 10kgDB2L￥2,200～2,000、　L￥2,500～2,300、　M￥2,400～2,200。

大　阪10kgDB2L￥2,200～2,100、　L￥2,400～2,200、　M￥2,200～2,100。

【福岡市場】　販売量109トン　　強保合

北　海 20kgDB2L￥2,300～2,100、　L大￥2,400～2,100、L￥2,400～2,100、
M￥2,000～1,900。

長　崎 10kgDB2L￥2,200～2,000、　L￥2,500～2,300、　M￥2,400～2,200。

佐　賀10kgDB2L￥2,100～1,900、　L￥2,500～2,100、　M￥2,300～2,000。

供給（産地）の動き

北海道産地の出荷の進捗率は、地域別・荷主別にはかなりの差があり、総体的にはJA系統の出荷は前進化傾向で、在庫は計画より少ないJAが多く、商

社系は意外に多いと言われている。いずれにしても、3月以降は日毎に北海物の出回り量が減少傾向になり、府県の新物が増加傾向になる。当初、生育が順調で2月から出回り量が増加すると予想された府県の極早生は、1月末の強風雪による天候不順で生育・出荷が停滞し、後ズレしているが、3月には順次回復すると予想されている。

北海道産地

産地関係者の多くは、北海物の在庫は予想外に少なく、切り上がりが早いとの見通しに傾いているが、現在、市場を見渡すと品不足の市場がなく、相応の在庫を抱え込んでいる卸が多い。玉葱の売行きは昨年来の高値続きで、需要は伸び悩んでおり、切り上がりは予想外に遅れる可能性も排除出来ない。産地関係者の中には、昨年3月の異常高値から、今年も春高を期待している向きも見受けられる。既に、北海道産地の生産者は、播種・育苗の最盛期を迎え、次シーズンの作付準備に追われている。輸入は、ニュージ物は不作と高値で成約が殆んどなく、中国に集約され前年比大幅減の予想。

府県産地

府県産の早生物の前陣となる静岡物は、冷え込みと日照不足などの影響で肥大が進まず、出荷は後ズレしていたが。2月に入り生育が順次回復基調となり、2月の出回り量は前年を上回る状態となった。3月の出回り量も前年を上回ると予想されている。

続く長崎・佐賀は1月末の強風雪で、予想外の被害を受け、生育が停滞し、出荷は1週間から10日程度後ズレしている。現在、出荷が始まっている長崎物は首が太く、玉締りは今ひとつで、2Lサイズと外品が多い。継続出荷は3月中旬になる予想である。佐賀の継続出荷は長崎より1旬遅れの3月下旬になるが、マルチ早生が増反されている。兵庫の冷蔵物は、入庫減で切り上がりが早いと

予想さていたが、現在の在庫は前年比１７０%前後で大幅に後ズレしている。年内の１０月出荷が最高の有利販売になった模様。近年、極早生栽培も試作しており、現在抜き取り出荷が出回っている。静岡物の高値に刺激され、府県の各地で極早生の栽培が試作されている。

輸入の動き

１月の輸入量は速報値で，１９，６２０トン前年比７６%。国別では、主力の中国が１９，５７１トン前年比８６%。アメリカが４７トン前年比２%。となっている。

中國、供給産地は甘粛省が終盤となり、此の先雲南省に移行する。雲南省は作付増と生育順調で出荷は前進化傾向にある。と聞く。現在の日本向け価格は、２０kg・C＆F・剥き玉が＄１１.２０。韓国向けが大幅減となり、前月比で値下りしている。

ニュージランド、収穫・出荷の最盛期を迎えているが、作付減に加え、大雨に見舞われかなりの被害が出ている模様。不作と高値で日本との成約は進んでいない。

３月の市況見通し

３月の市場は、北海物が順次減少し、府県物が順次増加する時期となる。北海道・府県産地とも、昨年の異常高が脳裏から離れず、春高期待感が強く、いずれの産地も市場荷受けに対する販売希望値が高い。一方、消費サイドでは高値悩みで、荷動きは鈍化傾向にある。３月後半からは春商材の府県の新物の関心が高まり、小売り店では新物の棚が広がるものの、販売価格は日を追って値下がりする。北海物は品質的にも老化が進み、産地の期待と反対に荷動き鈍化で、相場は値下りする。値ごろ感は市場相場で北海物はL大・Lサイズで

kg￥100前後、府県の新物はLサイズkg￥150前後と見ていおり、日を追って値頃相場に近づくと予想している。（**笹野敏和記**）